

同志社校友會名簿

(昭和五十二年年度版)

について

同志社校友會では、一昨年同志社が百周年を迎えるに際して、校友會でも記念事業の一つとして、校友會名簿の発刊が企図され、約一カ年かかって、本年の六月に、昭和五十二年年度版の校友會名簿の発刊にこぎつけることができた。

名簿の発刊は、いずれの大学の校友會でも、その事業計画の一つに組み込まれていく。同志社校友會の歴史をふり返ってみると、実に数多くの校友會名簿が作成されている。最近では、昭和四十六年五月に、山口校友會長の下で、川北理事を委員長にして発刊されたが、既に六カ年を経過、新しい卒業生が毎年約六千名も卒業する現在、新しい名簿発刊の要望が日ごとに高まりつつあった。さらに加えて、卒業生の移動もはなはだしく、また住所録に郵便番号の記入のないのは、名簿としての価値がなく、その機能が十分に發揮されないというらみがある。

これらの諸事情を考慮に入れると、早速、百周年記念事業として、せひとも名簿を整備して、発刊することは何よりの緊要な作業であるとの観点から、理事会では名簿の発刊を決議し、引き続き校友會の定時総会において五十一年度の事業の一つとして、名簿の発刊を万場一致で議決したのであった。

校友會の事務局では、早速に「名簿作成委員会」を作り、この仕事に取り組むことになった。約一カ年を費やして、現在の名簿を完成させることにまで巡りつくことができたのである。

今回発刊の名簿の内容について、若干の特徴とも言うべきものを掲げると。

まず第一には、旧制予科修了者の氏名を年度別に調査して、校友會名簿に加えたことである。その数は五、二七九名である。大正九年に同志社は大学令による大学として認可された。その際に大学予科として三年制の予科が発足した。その後二年制の予科も併設されたが、終戦後再び三年制の予科へと改正されるまでの約二十八年間（大正九年三月—昭和二十三年三月、新制大学の発足するまで）の予科卒業生を、学籍簿により一人ずつチェックしてまとめたのが

上記の数字である。

第二は、同志社中学四年修了者にして、同志社大学の予科、あるいは他の国・公立の高等学校、専門学校および予科に入学者の氏名が脱落していること、および戦後の学制改革により新制中学の発足に際して新制高校に移行する切り替えの時点に校友會名簿に掲載することを見逃していた点を発見し、中学校の名簿と校友會名簿とを照合して、新たに三一二名を加えて、今までの名簿としての不備をできる限り補なうことに努めたことである。

従来発刊されてきた名簿の体裁は、校友會の会則、同志社の寄附行為や、それぞれの略史なども掲載されているが、ほとんど写真が挿入されていないので、今回は、単に引く名簿とともに、見る名簿という点を配慮して、歴代の校友會長、総長の顔写真を入れて、在任期間に添えた。また、同志社校友會の略史および同志社百年の簡略な歴史にも、それぞれ写真を挿入して、写真で歴史がわかりやすいようにくふうをしたために、頁数が増加して上・下二巻となった（上巻は索引、下巻は名簿）。

定価は一万円。お申し込みは校友會まで。

(大江直吉・同志社校友會専務理事)